

# 病害虫発生予察指導情報

## (ナシ・シンクイムシ類 No.1)

平成25年8月8日  
鳥取県病害虫防除所

### 1. 情報の内容

性フェロモントラップの誘殺数が、例年と比較して多い地点が散見される。今後、シンクイムシ類の発生密度が増加する時期を迎えるため、防除の徹底が必要である。

### 2. 情報の根拠

- (1) 7月下旬現在、シンクイムシ類の誘殺数がやや多い地点(図1、2)が認められている。
- (2) 一部の地域でハウスナシの収穫果実にシンクイムシ類の被害がみられている。
- (3) 現地の赤ナシ園でシンクイムシ類の被害が多い園がみられている。
- (4) 向こう1か月の気象予報は、本種の発生にやや好適である。今後、シンクイムシ類の発生量が増加する時期を迎えるため、防除の徹底が必要である。

### 3. 防除上注意すべき事項

- (1) 二十世紀、豊水などでは、アグロスリン水和剤2,000倍液、テルスターフロアブル3,000倍液などを使用し、収穫前の防除を徹底する。
- (2) 晩生品種(新高、新興、王秋他)は、8月中下旬~9月中旬頃が重要な防除時期となるため、アグロスリン水和剤2,000倍液、テルスターフロアブル3,000倍液、サムコルフロアブル10の5,000倍液、フェニックスフロアブル4,000倍液などを使用し、防除を徹底する。
- (3) 園内のクリーン作業を徹底する。授粉樹の摘果、裸梨、被害果の徹底処分など、シンクイムシ類の発生源は早急に除去する。

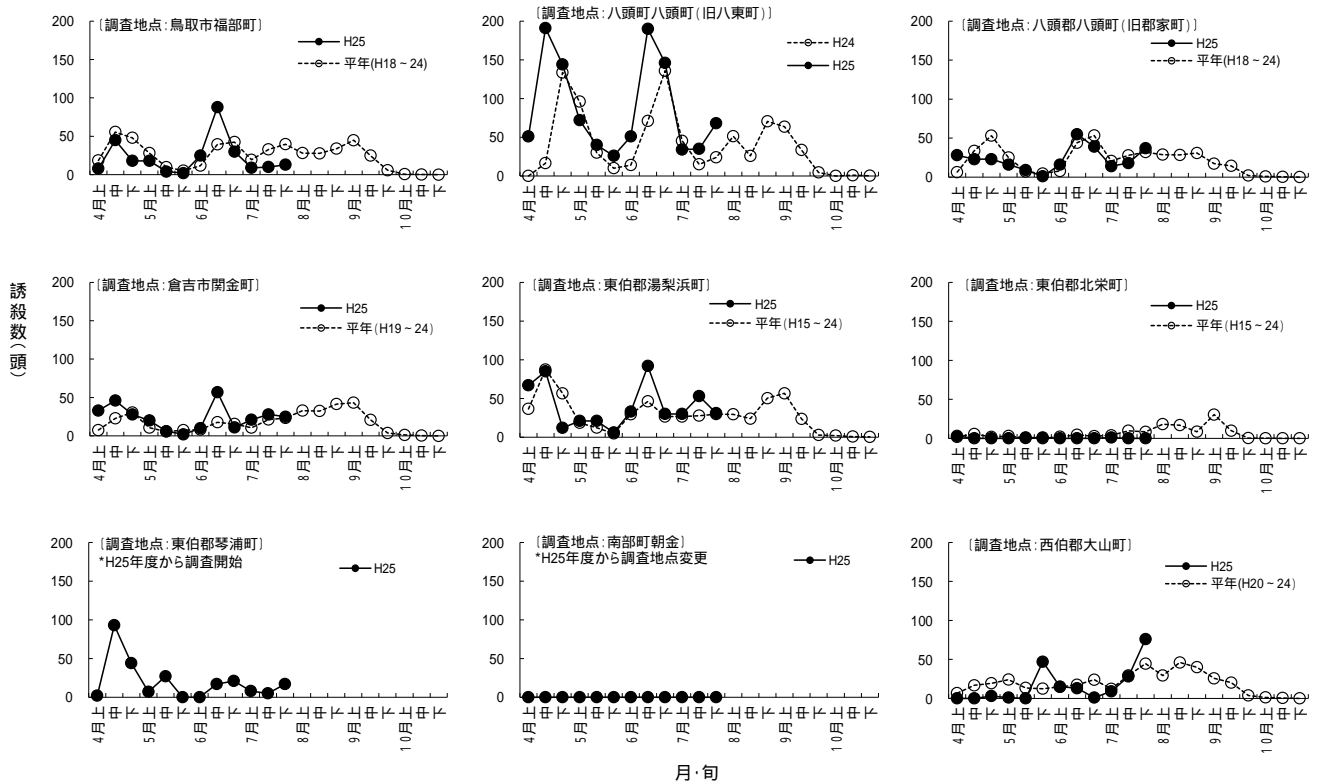


図1 フェロモントラップにおけるナシヒメシクイ雄成虫の誘殺消長

\* 調査は各普及所、防除所で実施

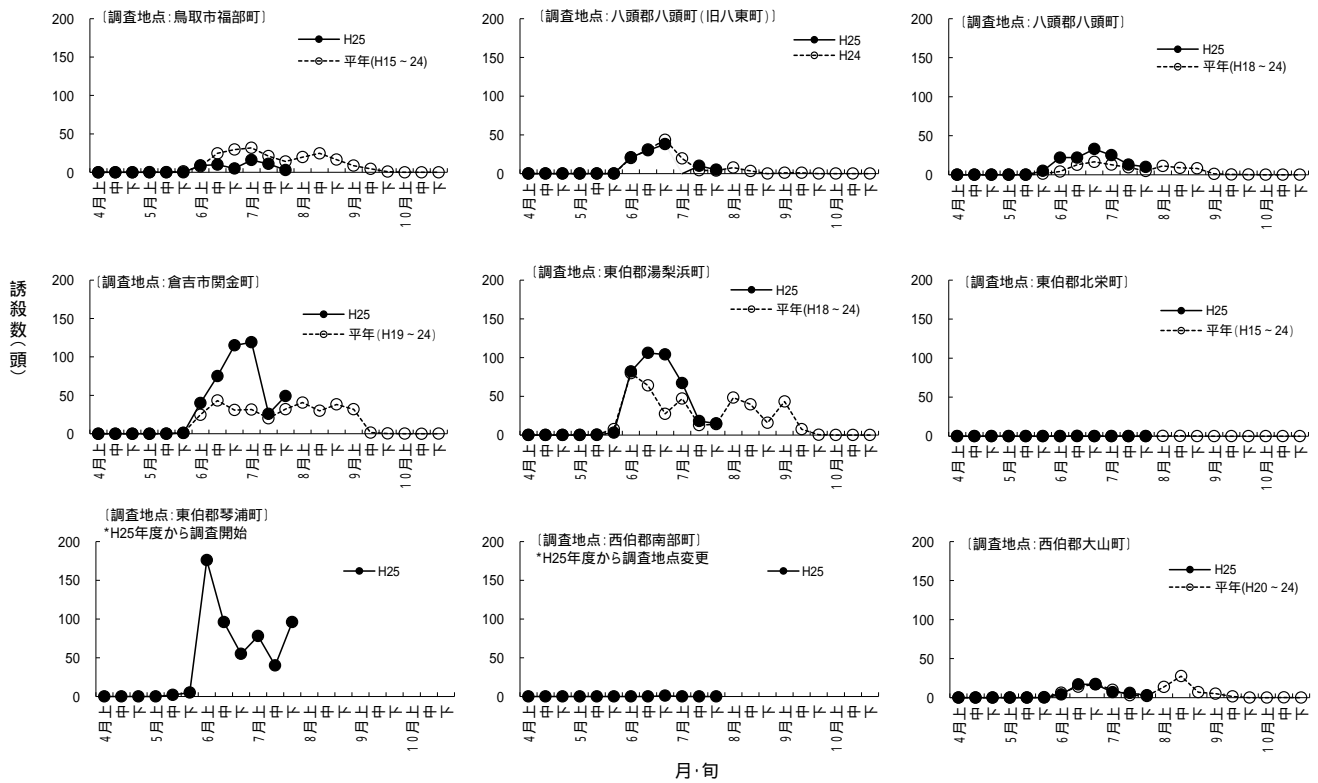


図2 フェロモントラップにおけるモシシクイガ雄成虫の誘殺消長

\* 調査は各普及所、防除所で実施